

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年3月15日

事業所名 Hownice!

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			毎回の時間で枠が決まっており、個々での活動スペースを用意している。	利用定員に対しての活動スペースなどに問題はないが、今後も環境設定については話し合いを繰り返し、活動に最適な空間を作っていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	1	2	1	支援には問題はないが、入れ替え時などにスムーズに行くように話し合いをしている。	1対1の支援なので、急遽職員にお休みが出たときの対策として、職員を確保できるような体制をつくる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3		階段昇降時は指導員を配置、声かけで安全に配慮している。	階段があるので安全対策はしているが、より安全に配慮するためスクマナージメントを職員一人一人が高次元でできるように研修などを増やしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		朝会、活動後などに振り返りを行い、次の活動につながるようお互いにアドバイスを行っている。	取り組んだ支援に対して自ら振り返り、他の職員からの視点にも耳を傾けられるような関係を保ちながら、行った振り返りを記録することを習慣づけ、より良い支援に繋がるような振り返りを行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			アンケートを基に会議などで改善を図るようにしている。	保護者からのアンケートをまとめるだけでなく、共有して課題を洗い出し、改善に努めていくことを目標、スケジュール化して対応していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			会社HPで公表している	公表していることを知らない職員がいるため、職員会議等で周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			4	非該当	今後第三者評価を入れるかどうかについても検討をしていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			草加市内の障害児通所支援施設連絡会で毎年職員向けレベルアップ研修を年間で開催しているため、それに参加している。	次年度は、施設内での勉強会を増やしていくことで、より現場に即した技術、知識を身に付けるようにしていく。
適切な 支援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			アセスメントシートの活用により、詳細なアセスメントを行なうことが前提になっている。	個別支援計画の的を絞ることにより、より児童の課題や長所に目を向ける内容で作成できるよう、ケース会議などを増やしていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			日常生活だけでなく、健康状態、学校生活、得意不得意などの内容についても記入してもらえる内容のシートを使用している。	標準化されたアセスメントシートを活用しているが、より細かい行動レベルにアセスメントができるようなツールを用意している。職員同士で話し合いながら、児童の実態を把握する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			毎月の実験ウィークでは、朝会などを活用して、活動内容をチームで計画している。	活動プログラムを立てる中で、立案する人が固定化しているため、チーム全体から意見が出てくるように、支援に対する意識の向上を図る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			子ども達の興味を広げるため、活動が固定化しないように工夫している。興味を持ってもらうような仕掛けを作り取り組む意欲を高めている。	子ども達に活動を提案していきながら、子どもが自ら取り組みたいと思えるような仕掛けを作っている。上手くいったことはチームで共有して今後も固定化しないように努めていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1		休日や長期休暇などでは、自然体験ができるような計画を立てている。また、保護者参加型の取り組みも計画している。	今年は感染症拡大防止のため、計画を立てた課外活動などが中止になることが多かったため、課題をきめ細かに設定して行うことができなかった。今後は、課外活動のみならず施設で行えるような取り組みを通してきめ細やかに設定していきたい。

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

採 の 提 供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	1	1	月次報告を作成することでモニタリングの会議を開かなくても児童の様子がわかるようにしている。	必要に応じてケース会議、モニタリング会議などを行ない、また月次報告を作成することで支援計画を更新する際に意識できるようにはしているが、全員の意見が反映されているというよりは児発管や主となる職員の意見がほとんどであるため、職員全員が支援計画を常に意識できるようにしていくことが課題である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			個別支援なので、活動はそれぞれで考えているが、入れ替え時の保護者対応、連絡事項などを共有する時間を作っている	打ち合わせが十分に行っていない時は、仕事内容を見直し、支援前の役割分担などの効率化を図るため、連絡事項をホワイトボードに掲示して行い、情報の共有に努める。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			支援終了後、支援チェックシートを活用し、支援の振り返りが行えるように工夫をしている。	支援の振り返りでは、その子の支援で気付いたことを全体で共有し、活かせるように話し合いは行っている。今後は記録などを行い、より支援に活かせるようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			記録について、支援の終わりに記録をしている。	記録の内容について検討し、より細かい支援内容を分かりやすい記入の仕方を検討し、よりよい方法で努める。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			個別支援計画の更新のため、6ヶ月に1度児童のモニタリングを行い、個別支援計画更新に役立てている	6ヶ月に1度だけでなく、必要に応じてケース会議を行い、サービス計画の見直しの必要性を判断していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1		創作活動、自立活動など基本活動を組み合わせ合わせて支援を行っている。	引き続き、ガイドラインの総則の基本的活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っていきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1		担当者会議は基本的には児童発達支援管理責任者が参加しており、会議前には最近の状況等を職員と確認している。	引き続き、適宜主となる職員が担当していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2		行事の確認、休みの期間について確認を行っている。	トラブル発生時などでの対応は今のところないが、今後、トラブル発生時に学校と連絡を取り、情報共有が適切に行えるよう備える。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4		非該当	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		対象となる児童について、関係機関との情報共有を行い、相互理解に努めている。	情報共有は主に児童発達支援事業所であり、幼稚園との連携はしていない。必要であれば、情報共有がスムーズに行えるように努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		4		現在、情報を提供する機会がない。	現在、情報を提供する機会がないが、他事業所等へ移行する場合は、支援内容等の情報を提供するようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			支援センター等との連携を行い、支援等の助言を受けている。	引き続き連携を行い、助言を受ける。研修などの参加も行っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			4	個別支援なので、交流する機会を設けることができなかった。	外部との交流について、活動する機会を今後は設けていきたい。感染症拡大防止のため、慎重に計画をしていく。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1		草加市の障害児通所支援施設連絡会への加入や参加をしている。	研修も実施してくれている機関のため、毎年必ず加盟して研修等も利用している。	

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			電子媒体を使った連絡帳で常にやり取りなどをしやすくしている。	その他にも面談や送迎時などでコミュニケーションを取り、児童の発達について共通理解ができるようにしているため、今後も行ないたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1		ペアレントとトレーニングなどを行う機会がなかったため、案内などを周知できるように努めたい。	保護者からの相談、質問等があった場合に助言等を行っていたが、会報やブログ等を通じて、日ごろから行える対応力向上の方法などを伝えていけるよう検討していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時に運営規程等については一通り説明し、質問などがあれば答えている。	契約書別紙の作成で利用料についてはより分かりやすくしておくことも検討したい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			児童発達支援管理責任者がこの役割を担っている。	面談時や連絡帳等で質問があれば答えているため、今後も随時質問等は受けられるようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			4	未開催	次年度は年2回の保護者会を企画し、保護者同士の連携を支援していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			重要事項説明書等では窓口の説明をし、直接事業所に来ることに 대해서는随時対応している。	できる限り問題などがあつた際に速やかに対応できるように事業所としての態勢は整えているため、引き続き真摯に対応したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			3ヶ月に1度のペースで会報を発行している。また、毎週ブログの更新を行い、発信している。	活動概要などを保護者へ発信しているため、施設での取り組みに関心を持っていただいている。ブログを楽しみにしていると言っているため、引き続き取り組んでいく。
	35	個人情報に十分注意している	4			個人情報の取り扱いについては、日頃から持ち出しのルール等を設けている。	個人情報の誓約書等は従業員にも取っており、職務違反となるような行為の無いよう、日頃からルールを設けるなどして取り扱いには注意をしている。
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			視覚化や個別説明などを行ない、各児童の特性に合った支援ができるようにミーティングなどで確認をしている。	引き続き、特性に合った支援に寄り添えるようにアセスメントをしっかりと行ない、情報共有をして、児童に混乱のないよう努めていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	2	今年度は行うことができなかった。	今年度は行えなかったが、地域との交流ができる機会を設けられないか検討する。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1		各種書類は作成している。	保護者への周知については、問い合わせがあった際にはお見せするようになっておりますが、その点についても周知をするようにしていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			年2回の避難訓練、と通報訓練を実施している。	次年度は防災意識の高まりも受け、月に1回は防災訓練を実施し、職員が避難誘導をスムーズに行なえるようにし、児童にも防災意識を高めてもらう機会を設ける。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			年に1回虐待防止の研修もしくは勉強会を行ない、職員に周知している。	引き続き年1回以上の研修等を導入し、虐待防止につながる知識や声掛けも仕方によっては虐待になることもあるなどの共通認識を持てるようにしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		やむを得ず身体拘束を行う場合については、組織的に決定し、必要性について保護者に十分に説明している	身体拘束をせざるを得ない内容について、施設間で十分に時間を設けて話し合いを行っている。決定した内容については保護者へ十分に説明をしていくことを今後も真摯に対応していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		食物アレルギーについてはアセスメント時に必ず聞き取りをし、職員にも周知している。	医師の指示所はいただけないため、今後必要のある児童については保護者様にご協力いただき、万全に対処できるよう整えておく。

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			ヒヤリハットを月ごとに集計して、会議にて検証などを行ない、再発防止に努めている。	引き続きリスクマネジメント研修も適宜行い、事故防止に努める。
----	---------------------------	---	--	--	--	--------------------------------

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。